

羽ばたく日本女性 (223 ページ)

なでしこジャパンのほか、女性上位の現象がよく目に触れる。

中国都市部から来日した女性の目には育児期間の日本女性が地獄だ。赤ちゃんの婆ちゃんに一時世話になっても子供の面倒を見るのはすべてママの働き。日本で保母(ほぼ)を雇う人が皆無に等しい。原因が至極分かりやすい一圧倒的多数の人がいまだに中流意識の持ち主で、収入に大差なく、お手伝いを雇うほどの余裕もない。したがって右写真に写っている、子供三人まで乗せて疾走する女性はそうした厳しい環境で鍛えられたつわもので、別にサーカスの名人ではあるまい。



英雄たる母

ダダをこねる一人子よりもセガレ三人が宝物。自転車に乗せて走る気分は豊田よりも爽やか。社会保障ほど頼りないもの無し、前も後ろも「自衛隊」三本に囲まれて、さっそうと街頭を突き進むわが母子軍。

日本 47 の都道府県の中、現役 (2011 年 8 月) 女性知事は 3 人 (北海道の高橋晴美、山形県の吉村美栄子、滋賀県の嘉田由紀子)、また 2008 年まで千葉県、大阪府、熊本県の知事も女性だった。このほか、おびただしい女性が市長クラスのポストについている。日本の自治体長官は完全に地元の住民投票で選ばれるもので、男性と同じ条件で立候補し、すべて本人の指導能力と人気を頼りにしているが、イロケを振りまくだけでは、なれない。

また、私の勤めている「**大分人材地域文化交流協会**」(元の「大分県一村一品女に任せろ 100 人会」)の**後藤佐代子会長**以下数名の女性活動家は、いずれも「一村一品運動」の推進と発展に重要な役割を果たされた花形の面々で、これら現代版の楊家女性将軍穆桂英たち「幕末の会津戦争で奮戦された会津藩娘子隊(じょうしたい)にあたる」は、



講演される後藤佐代子会長

子育てと「一品」育成に注いだ心血と経験を来日研修団の人材育成事業に生かしつづけ、若き日の風貌が見え隠れする顔から彼女たちの豊富なキャリアが光を放ち、研修スケジュールの至るところに人情が見られる。立ち去る研修者から何度も振り向かれ、大分最頂に陥る者も少なくない。